平成２１年度『第１回　流山市　経営戦略会議』議事録

開催日時：平成２１年１１月４日（水）１８：３０～２０：００
会　　場：流山市市民活動推進センター大会議室　（生涯学習センター３階）
出 席 者：
＜まちづくり顧問＞ 三好正也氏／サンジーヴ･スインハ氏／堀内都喜子
＜　流　山　市　＞ 井崎市長
＜ オブザーバー ＞ 染谷企画財政部長／阿曾都市整備部長／髙市健康福祉部長／宇仁菅環境部長／池田産業振興部長／寺山指導課長／海老原生涯学習部長
＜事務局＞　　マーケティング課　４名

井崎市長
◇ことしの事業の説明（2009年度）
◇ 広報　資料　ニュースで取り上げられた資料の配付
流山は子育て支援に力を入れています
流山市は、特に共働きの世代に対して、住民誘致の視点から、この世代を取り込むためにメインターゲットに設定して市政を展開してきています。
インターネット等で、流山市の子育て支援を他市と比べて選択して、住民が来てくださる効果を上げています。さらにこれを推進する必要を感じているのが現状です。

今後、さらにこの方向で保育園の充実に努めていきます。流山市は、若干待機児童がおりますけれど、それを完全に解消しようと努力しています。今年の12月に、まず、第一地弾でセントラルパーク駅前での施設の設置により、これで市がもつTX沿線３駅に全部揃うことになります。
園児を受け入れ、待機児童ゼロはもとより、預けられれば働きたいという方の希望もかなりかなえられるところまで到達しています。

その先の延長にあるのが、住民誘致に資する教育の在り方について、重要と思います。この会議で自由に意見を取り交わしたいと思います。

◆ 井崎市長　ニュース記事に関して（新聞記事で振り返る流山）
今年の１月からの新聞等による新春インタビューの中で子育て支援、あるいは子育てのしやすい街と言うことやサンケイ沿線リビング紙への広告出稿の実施、このように「ビズママ」という雑誌にも取り上げられています。
最近では、日本テレビで取材されました双子三つ子集まれということで、三つ子ちゃんとか「さくらんぼクラブ」とかが取材を受けて「子育て支援」、「子育て環境の街」として、メディアからも注目されています。

そういった部分で子育て支援、子育充実した環境があり、その先に教育環境、教育プログラムに充実した街をつくることで流山に住みたい、あるいは住み続けたいといってもらえる街づくりにしたい。

井崎市長　次に、現状をお知らせする意味で、簡単な流山市のPRビデオを見ていただきたいと思います。

◆　流山市DVDの紹介（１５分程度の市の簡単な紹介）

井崎市長

議題に入る前に皆さんの就任にあたってのコメントを一言お願いしたいと思います。
三好さんからお願いします。

三好顧問　適正人口都市の成長

このDVDはすばらしいですね。

現在の沿線では、東京までのアクセスが、ＴＸを使うと値段は高いですねがとても便利になりました。１０年後はどうなりますか？多摩ニュータウンの例もあるように高齢化したまちとなりますか？

流山市では、どのくらいの人口増加があるのか２割、５割？ですかね。マキシマムの人口はどれくらいになりますか、いわば適正人口ですね。

それからＤＶＤを見て「サプライズ」があちこちにありますね。それも同じものではない。また費用がかからない点で、常に「緑」があります。

これからは、他にないサプライズというのをどうやって作りだしていくか、しかも、あちらこちらで行う。市がそう言うものソフトプロジェクトやシナリオをいくつか持って実行すること。それは、宣伝しながら実行することが重要で、ほかとの差別化の視点がさらに必要と思われます。

井崎市長　（質問返答）

今、ご質問がでましたので、まずお答えしますと、流山市は、今日、現在１６万人程度。それから人口が１２年間くらい増え続けて、そしてその後ほとんど･･･１５年くらいに１８万、３年でピークを迎え、その後ゆるやかに減少していく予測です。

今、流山市のボリューム人口は団塊の世代で、団塊の世代はまだまだ元気なので、流山市としては健康づくりに力をいれていて、その方達があと１５年、２０年すると今度は福祉政策が非常に重要になってきます。

福祉政策に移行しないでできるだけ健康にいていただきたいので、今は健康政策に重点をおいています。また、流山市のすべてにおいて、「流山市子育て支援」をしています。

サンジーヴ・スインハ顧問　　外国人との交流　文化の受入

外国人の目から見ると、日本の大企業は、グローバル化していますが、世界的にこれから進んでいく中での流山市がどう対応するのか、例えばインドみたいな国とどうつきあっていくのか、仲間うちだけの付き合いで済むのか？日常の活動の中で流山市と丸の内を良くビジネス上、宣伝しますが、親密度は増していると思います。

さらに外国人が日本の文化を受け入れられるのか、今後、非常に大切となっていくと思います。

井崎市長

それでは堀内さん

堀内顧問　　フィンランドの教育とお国柄

堀内と申します。顧問は光栄に思っています。私は先ほど紹介にあったように2000年から2005年フィンランドに住んでいました。またフィンランドのことについて、公演の依頼がくるようになりました。今、フィンランドは、非常に注目を浴びている国で、一つ理由に教育があります。

世界の国の学力調査（OECDによる学習到達度調査 PISA：１５歳児の思考力や日常生活での問題解決能力を評価する　読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーの３分野が対象）で、全世界でフィンランドが一位になった。ということで非常に全世界から注目を浴びています。フィンランドが一位になったのは何も初めてではなくて、前回も一位だった。日本は逆に４位から順位を落としているということで、日本の教育者の方々が非常にフィンランドに注目しています。

フィンランドに住んで実際、自然がすごくあって、ゆったりと暮らしていて、それでいて社会が普通にまわっています。それは教育の面でも経済の面でも、同様です。その不思議さは、何も皆ガムシャラに勉強しているわけでもなく、ガムシャラに仕事をしているわけでもないという点です。

色々みているとフィンランドでは、９０年代の前半に大きな経済危機をむかえて、日本でいうバブル崩壊ありました。フィンランドにもバブル崩壊があって、その時に一番注目したのは、何がフィンランドとしてできるのかです。人口５２０万人しかいないので、一人一人の能力を高める一人一人が国の資源であるということに、着目しています。一人一人が能力を高めることが国として成長する鍵になるのではないかということです。

一人一人　テーラーメイドの教育

フィンランド教育システムは、特別なことではなく、普段決まったことはしていないが、一人一人テーラーメイドの教育という一人一人の子供達に注目した教育というのに力を入れているなあと感じています。

そういった「一人一人に」教育というのが、日本に今後、必要ではないのかと思います。今、私が感じますことは、生涯学習の重要性です。子供だけが勉強というのではなく、やはり大人も勉強することで自然と子供にも伝わっていくと思います。

大人になって仕事をしているから勉強ができないのではなく。産休だからただ休むのではなく、その期間を有効にして大学にいくとか、そういった意味で大人になってからさらに学習・勉強が重要で、なるべく社会人になってから生涯学習を親がしていることで子供が勉強しなきゃなと思うことがあります。このことが必要性、重要性をもっていると思います。

フィンランドの課題の中に人口をもっと増やしたいのも確かです。そのひとつには、学生、その人たちの力が発揮できるような起業であったりします。ですから会社というのが大切となります。職業を誘致することも重要ですが、さらに起業、会社を起こすほうの起業があります。能力ある学生が、そこにずーと住んでもらって、そこで仕事してもらうというのが大切です。

流山市は人口が増えて、１０年後２０年後と考えた時に、今いる人たちがそのまま出ていくのではなく、そのままずっと居てもらって、私達が「こうゆういい教育」を受けてきたまちだったから、ぜひ自分の子供にもそうなってほしいと思えることが大切です。
自分が持っている能力が、発揮できる場所が重要と思います。
私もこれから初めてなので一緒に勉強していきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

三好顧問
フィンランドとは、大きな違いがありますね。

堀内顧問　フィンランドの若いひとへのチャンスは、社会が培う
それはおっしゃるとおりで、日本では修士をとっても評価されるわけではないです。年功序列ではなく、一般的にいってもフィンランドは、非常に若い人たちチャンスを与えるということに力をいれています。
フィンランドの中でも９０年代バブル崩壊などもあり、そのときの教育改革を行った代表が２８歳です。
新しい発想で開発していくためには、逆に若いほうが想像力があるし、実行力もあるし体もきくということで、一般企業においても２０代で責任ある立場を任されることがあります。
今の国の教育相も３０代の女性がリーダでやっています。それはやはり文化の違いというのがありますが、フィンランドはもともと年功序列とか、言葉のなかでも敬語ということは、あまりないという、ことで直接の意味で日本と比較するのも難しいです。

三好顧問
日本とは大きな違いがありますね。

堀内顧問　　起業精神などを育てる教育社会
そういった上の方からのチャンスをあたえるという意味では、フィンランドには、それがあります。あと、今、私のところもそうですが、下の世代は若いけれど意外に慎重だというのがすごくあります。とにかく穏便に、あまり社長になりたいというのがない人が多い。ただ今の世代はわかりませんが、もっと子

供の時から上をみる、常にトップを目指す、個性ではないが自分で何かをしたいと思う人や、精神的なものを養っていくなど保育園児や幼稚園児から起業精神などを育てる教育社会があります。

三好顧問

ちょっといいですか、日本の国際化に関してみると、ジキルとハイドっぽい人感覚になりますが、国内にいる人は、先ほどのフィンランドの感覚は、すごくわかってくれない人が多いです。そうゆうとき逆にバーンと言い放つことができると面白いですね。

堀内顧問　ビジネスにおいても教育トレーニングが重要

その場にいても特に敬語とかありません。年齢が上だからもちろん心の中で敬う必要はあるのですが。しかし、すべてが同じ立場という考えかたが強いです。例えば、お客さんだから、お客さんはもちろん大切にしないといけないが、お客さんとメーカーの立場も全部比較的対等だし、会社の中でも年齢というのはあまり関係がないです。

経験も、日本だと１０年、２０年ないと経験あると言えませんが、フィンランドの場合、２、３年あれば経験数として充分です。

では、経験のない若い人たちはどうすればいいのかというと、勉強することで知識が表現を補う方法になります。それが再教育だったりします。

三好顧問

宗教はどうですか？チャーチは行くのですか？

堀内顧問

チャーチに行く習慣はあまり強くありません。クリスマスの時くらいしか行かないようです。教会に属している人は大勢いるのですが、それも結婚式とかです。

井崎市長　　夢を追う気力をやしなう

先日、育文館・ワタミの渡邊会長にお会いしたのですが、その会長の「夢手帳」と言うのがあります。それは夢と目標を掲げてそれをどう実現していくかいうプログラムとなっています。夢にどうやって近づくか、それに近づいているかどうか、日常のなかで常に考えていく必要があります。インドではこどもたちの力をのばす方法はどうですか。

サンジーヴ・スインハ顧問　インドの環境は日本とは、正反対

理想的な話なのかもしれなませんが、ひとつは今世界のなかでも、日本は、文化それぞれの生活をとっても先進国、すごく健康とか、食事とかどの方面でも進んでいます。平均年齢が高くなっています。それでもみんな元気、さらに技術もどんどんよくなっています。

国際化の面では、そろそろ国際化から２、３０年、５０年経ちます。すでに若い世代へ、受け継ぐことが、もすごく大切です。経験もあって、長期的な政策をとらないといけないとおもいます。また反面シニアに対する戦略が必要です。

日本の現在の技術は、社会福祉、日本には向いています。色々勉強して、大切なことはある。努力とそれも経験になることが一番素晴らしいことだと思います。

インドの場合は日本とは逆です。若い国です。

井崎市長

２５歳以下が５０パーセントですか？

サンジーヴ･スインハ顧問　インドは若い国　仕事と教育

３５才以下です。若い国で、それでも健康面がよくなって、若いことがインドの素晴らしいところです。問題は、人口が大きいことです。その大きな人口が最近、若い人口がいい教育を受けはじめています。仕事になるためにいい教育を受けるということです。今までの教育は学問的でした。例えば、インドの若い人たちは、携帯電話の産業分野をみても、自然とグローバル化しています。日本がグローバル化といっていますが、それは無理矢理しなくでも同様に進行していきます。これを認識する必要がります。

堀内顧問　仕事に結びつける能力を高めることが重要

インドは、今まで学問に偏っていたけれども、社会に役立つ知識、仕事に役立つ、すごく重要となって、いると思います。

でフィンランドとはまた異なります。とにかく大人になった時に、それぞれ生きていける能力を持たせることが教育です。基礎体力として普通の勉強も大切ですが、いかに仕事にそれを結びつける自分がいるかです。日本もしていかないといけないのかな、生活スタイルを再検討してみる必要があります。フィンランドには新卒というのが社会慣習としてないのです。

大学を出たらすぐ会社で、１０年、２０年ある経験の人と、同じような仕事をしていかなくてはいけないので、いかに、大学だったり、専門学校で知識を身に付けて、仕事があってこそ勉強がいきます。

日本が今どうしても私自身もそうだが、学校は学校、仕事は仕事。学校で勉強したことと、仕事がいまだにリンクしない。でも今本当に学校とか３０年前とか戦後だったら親の仕事を手伝うとかしながらもっと早い段階で教育とリンクづけができれば、いいと思います。

サンジーヴ・スインハ顧問　日本の社会特徴は、長い雇用の上での勉強・教育

日本は、同じ会社にすごく何十年と働くことが多いです。これは日本の特徴ですね。ですから大学で勉強したことが、勤めてから勉強しながらですみますね。経験持ちながら続けていれば勉強できる。

日本の場合には、それが前提で、とりあえず２，３年後、６年後できなくても、やがてできれば良いと言う傾向があります。

三好顧問

OECD の学力調査では１５才でくらべていますが、どうなのでしょうか

堀内顧問　　OECD の学力調査にかんして

OECD は記述式の傾向がありフィンランドに合っています。日本はどうしても一つ一つ細かいことをおぼえていていく教育ですね。フィンランドは、応用力培う教育です。日本も同様ですが、OECD はおとなになってからどう活かしていくか、長所は大人になったら必要な能力、知識をそこでつけているということだと思います。

堀内顧問

OECD の調査だけ非常に注目されていますが、それだけを見るのはちょっとまた違うかなと思います。フィンランドはエリート教育をしないのでエリートはつくらない。

井崎市長

エリート教育の視点は、課題ですね。むしろアメリカなんかは、できる子を育てることを考えます。日本は幼稚園前でも、また、幼稚園の頃から子供達は、答えが一つという傾向があります。どちらかというと東南アジア以外は答えがたくさんあります。物事に対して同じ答えがあって、その理由付けを小さい時から訓練していますので、なかなかその辺がやや劣る傾向があります。

それだけじゃないのだろうが、傾向として、日本の場合どうも枠に入って、ものを収めるようにする傾向がみられます。

井崎市長　ご質問あれば・・・

フィンランドの教育との違いと文化の影響度によるその違いに関して

寺山指導課長・調整的な折り合いをつけながら、日本の文化そのもののなかで、想像力というのは、小学校、中学校の段階でどこまで大人になってから、じっくり力を養うのか、大学生の時点それとも専門学生、小学校、中学校くらいで？

夢を抱かせるということで、キャリアビュウローというのを実際やっています小学校６年生の学校があります。実際、日本に生まれれば、どこでどう見極めてビジョンをすすめていくかが、重要と思いますが、課題も多いと思います。どうでしょうか。

年齢と教育視点ですが、夢を抱かせるないしは、大人に成ったときに、生きる力を育む教育のありかた、日本人ならではなど、見極めが非常に難しいと考えます。

サンジーヴ・スインハ顧問　日本は人としての教育がこれからは重要

私はインドの貧しいところから、日本みたいなすごい先進国で生活し働くようになりました。そういう視点からみると、経済大国日本は既に金銭充実し、たくさんの物が流通しています。世界の中での日本の

場合は、生活基盤があります。日本みたいな先進国の場合は、人としてこれから重要です。システムの良さなど既にできています。

インドの場合は、まだまだ経済がちゃんとしていません。仕事でも、体を動かして何か仕事をできるような努力がなければ、ダメです。これを乗り越えていかなければなりません。

日本の場合は全然ありません。日本の場合は、やはり人間としてのあり方、人としての働き方が大切でそれには、教育が重要な役割を果たしています。

井崎市長　　グローバル化を意識する必要性が生まれています

この前の議会の中で流山の子供達は世界の中で生きていかなければならない。ということを意識しないと。日本の社会の中で、それぞれ努力はしていますが、日本の社会の中で今まで通り生きていくのでは実はもう許されません。そして一人一人が可能性を最大限に社会に貢献、あるいは自分の事業を世界というのを充分意識しないと、一つ一つを作り上げていく、ことができない。狭い地域の意識だけでは不十分となっています。

堀内顧問　他の世界を理解する

私も外資系で働いていて、海外の日本人の中でも、キッチリ仕事をしようと、ちょうてい能力というか、相手の意見を聞いて、それの中でうまくやろうというシステムはいい力をもっていると思います。ただ、あまりにも全員が全員でないけど、日本のスタンダードをこだわりぬいている人も大勢いることも確かで、日本がそうなのだから、日本は特別なんだという人もいて、それが今まで通ってきたという結果となっています。

あと、もし日本がどうなるかわからないが、日本だけにとどまるのであればその必要はないし、英語だって必要ないしは、海外という場合は、自分達のやりかたを抑えつつ、他の人たちを受け入れる広い心とか、直感的に見ることができる能力が必要となります。

三好顧問

フィンランドは何系か？スゥエーデン・・・

堀内顧問

フィンランド・ノルウェーは英語やドイツ語に似ています。フィンランド語・・・

三好顧問

価値観も違うし、スタディも異なります。

堀内顧問

ロシア語ともまったく違って、フィンランドだけなので、今まで英語は苦労しています。ただフィンランド小さい国なので普段気になる他の国のマーケットで生き残るためには英語を学びことが必要となりま

す。

三好顧問

国際化という点からすると大事ですね。

井崎市長　さらなる夢のはぐくみ方

今は具体的支援の仕方をすれば、もっと市民の知恵、知恵と力が合致できるような支援の仕方をすれば、もっとよくなります。流山市を選んで、インターネットで調べて、選んだ。そうゆう意味では、わかりやすくそれなりの成果がでます。

例えですが、イタリア語の検定試験はすごく難しい。イタリア人にとっても、難しいと言います。難関の試験、それに日本人で毎年２，３人合格するらしいのですが、その中に最年少の中学一年生います。その人が、大人になったらどんなことをやりたいのか？夢は何か？と聞いたら、「音のないところで鳴る楽器をつくりたい」。という。このことは常識外れています。だが、このことを思いつく発想力、創造力に、驚嘆します。私はこうゆう子が流山から育てきたら面白いと思います。

（終）　以上

※今回の議事録は、録音状態が非常に悪く、一部割愛して収録いたしましたことを陳謝いたします。特に、三好顧問の聞き取りが非常にきびしく、全収録できずまことに申し訳ございません。（企画財政部　マーケティング課　課長　間瀬）